

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800237
法人名	社会福祉法人グリーンコープ
事業所名	グリーンコープグループホーム飯塚・和(のどか) (ユニット名)
所在地	飯塚市潤野967-13
自己評価作成日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4091800237-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和5年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人グリーンコープグループホーム飯塚・和(のどか)は開所して13年目を迎えました。近くには高校、公園、集会所、スーパーがあり環境のよい所にあります。センターは2階建の建物でどか1階にあり日当たりのよい環境にあります。他に訪問介護、居宅支援事業所があり2階には通所と多目的室があります。コロナ禍の今では感染予防に取り組みながら月に1回の認知症カフェ「げんきカフェ」を状況に応じて開催しております。地域の方々も楽しみにしてくださっております。コロナ禍の中で「今できること」をセンター全体で地域の方も含めて相談しながら楽しく取り組めるよう努力しております。ご利用者様、ご家族様のお心に寄り添うことに重点をおき小さなことでも必ずお伝え一緒に取り組めるようにしております。GHのどかの理念「の・ど・か」を文字とった取り組みと社福の理念「8つの基本ケア」に基づきそのひとらしい生き方を大切にします

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立して14年目となる事業所は、法人の系列事業所が複数入っている複合施設の1階にある。事業所内は清潔感があり、適度な温度と明るさがある。職員は事業所理念である「のんびり ゆったり その人らしく…」を念頭に置き、利用者一人ひとりの持てる力を活かしながら日々関わっている。職員の個々の状況に合わせた勤務が可能であり、資格取得や研修等キャリアパスを構築する為の支援体制も充実しており、長年勤務している職員も多数いる。トイレや浴室等、清潔保持の為に短時間勤務であるが障がい者を雇用し、調理員として地域の方々7名も勤務している。ほとんどの食材は法人母体の物を利用し、手作りの料理を提供している。事業所2階では毎月「認知症カフェ」が開催され、趣向が凝らされた内容となっており、地域住民の参加も多い。地域福祉の拠点として今後益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	de	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のどかの理念は2014年4月に作り替えました。現在は社福グリーンコープの理念と8つの基本ケアもできて管理者と職員は理念の共有をし実践を行っている	事業所独自の理念は事務室や食堂兼居間の見やすい位置に掲示している。職員は法人作成の基本スタンス(8項目笑顔、言葉を大切に等)を行動指針とし、人生の先輩として利用者を尊重しながら明るく接することを心掛けている。毎朝・夕の申し送りや職場会議等で理念を振り返りながら日々ケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板をご利用者と一緒に届けに行ったり町内の行事に参加している。また毎月の認知症カフェやセンターの行事を回覧板にのせてもらい交流を行っている	運営推進会議の参加メンバーである民生委員より情報を得て、今年の夏、自治会主催の夏祭りに利用者・職員で参加している。事業所2階で月に一度開催される認知症カフェには地域住民十数名の参加があり、利用者、職員の交流の場ともなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェも7年目となり馴染みの方に加え、新しい方々との出会いもありセンター事業所内での趣向を凝らし認知症への理解や支援方法など地域の方に向けて発信しつつ自分たちの学習の場にもなっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これではご利用者の報告やご意見をいただきサービスの向上に活かしている。身体拘束適正化委員会も開催し虐待等についての是非を検討している。外部評価についても報告している。	利用者・家族、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加し対面開催している。利用者状況や行事、外部評価等の報告を行っている。利用者も自身の思いを伝えたり、参加者より地域行事の情報を得て、利用者・職員が行事に参加し、地域との交流を図っている。前回の議事録を会議当日に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに包括支援センターの職員に入ってもらい、事業所の報告やご利用者の様子などをお伝えしている。鎮西地区事業所連絡会にも参加し災害時に備えている。相談などができる関係を築いている。	職員の人員基準や加算等介護保険に関する内容や事故報告等で市担当窓口に出向いたり、電話で確認したりしている。認知症カフェの催しで市職員が講師として介護予防体操等行ったことがあり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎回職場会議では身体拘束委員会を開催、身体拘束や虐待防止について話し合っている。職員は常にご利用者の位置を把握するようにしており不安な方には個別対応する他、散歩、ドライブにでかけて気分転換を図っている	職員は年に一度の法人研修や月に一度の職場会議で身体拘束について学ぶ機会がある。研修後に作成する報告書を全職員に配布しており、相互に理解を深めている。19時～6時半頃まで防犯の為玄関を施錠している。利用者の傾向を把握し、散歩に同行したり、近隣とも声掛け、連絡をしてもらおう等の関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項どおり身体拘束委員会を開催し防止に努める他、運営推進会議でも身体拘束適正化委員会を開催し地域の方にも発信しています		

自己	外部	項目	自己評価	de	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を利用されている方はいない。必要な方にはパンフレット等を配布できるように用意している。職員には権利擁護や人権については研修を受け学ぶ機会を作っている	職員(リーダー)が講師となり他の職員は制度について学ぶ機会がある。利用者・家族には利用開始時に制度について説明し、パンフレットは準備している。現在、成年後見制度の利用希望者が手続き中である。必要が生じた場合は、職員は管理者に繋ぎ相談に応じる体制となっており、すべての職員が制度について理解を深めるまでに至っていない。	権利擁護に関する制度の理解について、必要な時にすみやかに情報提供がなされるよう、すべての職員に周知する機会を持つことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や終了または改定等の際はご利用者やご家族に十分説明を行い署名捺印をもらっている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2~3回行事のあとにご家族に集まっていたご意見やご希望を伺っている。日々のご家族来訪時には個別に伺うようにしている。意見箱は設置し出しやすいように用紙、筆記用具を置いているが今のところは入っていない。	家族会はあるがコロナ感染症予防の為、開催されていない。利用者から食事内容についての要望があり、献立の中に反映されている。職員との会話を利用者が家族に話した結果、家族から心配する連絡を受けたことがあり、家族訪問時や電話等で説明を行い理解してもらった事例がある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職場会議を開き運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。毎年処遇改善はなされている。	職員の意見・提案をリーダーがまとめ職場会議で話している。必要物品の購入や駆除剤、利用者の食事形態についての意見・提案等があり、反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の活用で各自の目標を設定し達成に向けての研修や技術講習、資格取得できるように環境を整えている。賃金も処遇改善や見直しにより上がっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にはセンター長と管理者、リーダー等が行っている。長く勤めてほしいので働き方の希望を聞いたりその人柄に焦点を当てて採用している。現在40代~60代の職員が働いており、それぞれ希望の働きをしている	職員の資格取得やその為の研修等について受講費用や交通費の支援、勤務扱いにする等事業所として支援している。個々の状況に応じた勤務が可能であり、長年勤務している職員も多数いる。職員は物作りやおやつ作り等、得意とするものを活かしている。年に一度、法人によるストレスチェックがあり、必要に応じて適切な対応がなされており、職員休憩室を確保している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回の人権研修は必修とし職員全員が受けることにしています。ご利用者はもちろん職員全ての人に人権の尊重された職場にしたいと考えます	職員は年に一度の全体研修や職場会議で学ぶ機会がある。職場会議では職員(リーダー)が講師となり研修が行われ、職員は報告書を提出している。管理者は不適切な場面を見つけた場合には、職員にその都度アドバイスをするようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	de	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修とそれぞれの希望する研修には研修費、交通費等の助成をして積極的に受けるように環境を整え推奨している。他にケアリーダーを置き介護技術や接遇などを勉強して媒介している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯塚市地域密着型サービス事業所連絡協議会に入り同業者と交流や勉強会をしている。今年は研修のみに参加した		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居されたかたには前利用のデイや施設、訪問の事業所、ご家族からも聞き取りをして安心して過ごして頂けるように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面談して不安なことや要望を伺ってスムーズに入居できるようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時にご本人やご家族と面談を行いグループホームの生活に馴染めるように他のサービスの利用も含めて話をしている。希望者に理髪、訪問歯科、往診等の対応をしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者との関係を「介護する側、される側」に分けず、「共に生きる人」として接している。出来る家事に参加して頂いたり一緒に出掛けたり、共に暮らす関係を大切にしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	のどかでの行事には必ずご家族にも声をかけて参加して頂いている。敬老会、誕生会、行事等にご家族が来られるととても喜ばれる。また、受診時も出来るだけ同行して頂き健康状態を把握してもらっている(今年度は誕生会、往診時程度のみ)		

自己	外部	項目	自己評価	de	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰りたくなればご家族等に連絡をとり安全に帰れるように支援している。お墓参りや実家に帰られたりとの支援はしてくださっている。地域の方との交流は認知症カフェやまつりで続けている	友人の訪問や郵便物の代読、事業所の電話を利用する際には手助けしている。利用者にとって懐かしい場所へドライブするなど個別に対応しながら、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物の整理や掃除、調理の手伝い、配膳など出来る家事をして頂き、終わるとお茶を入れてお互いの労をねぎらえる様な関係を大切にしている。ご利用者同志の声のかけあいは非常になされている。いい関係作りできている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前看取りをしたご家族(2家族)が今現在も行事ごとにみえて音楽の演奏をしてくださったり、以前おられたご利用者の家族より入居希望の方のお話など受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日頃の暮らしぶりや言動、ケアマネ、ご家族からの情報などで希望や意向を把握し、お気持ちに添えるよう努めている	本人や家族から思いを聞き取ったり、普段のおしゃべりの中や、入浴時の話しやすい雰囲気の中から希望や意向を把握するように努めている。表出が困難な利用者は表情や仕草から汲み取っている。それらは日々の日報に記録したり朝のミーティング時に報告し職員間で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前利用の事業所からの聞き取りとアセスメントを基本にしご家族、友人からの情報やご本人の会話の中からこれまでの暮らしぶりなどを把握するように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやケア会議、モニタリングを行い、ご本人の把握に努めている 管理者、計画作成担当者もケアに入り、実際の状況を介護員からの情報だけでなくご本人と会話することで把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を開き各担当者からの情報や意見交換をし現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当が決まっており、担当者が月1回モニタリングを行い、計画作成担当者に渡している。利用者の希望を家族に伝えたり、家族に意見を聞いたりして意向を確認している。医師・歯科医師からは往診時に意見を頂き職場会議でそれらを元に職員全員で話し合い介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	de	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアの実際、結果、気づき、ご本人の発言など記入している。また個別の目標を書き込み評価にて介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各担当者とのケア会議や必要時に意見を聞き、日々ニーズの変化を把握し対応できるようにしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月催している認知症カフェに参加され地域の方との交流をされたり、音楽ユニット(利用者家族)による音楽会を開催している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は24時間対応が必要であれば、往診を受けることができるよう支援している。(現在9名)歯科の往診も受けている。訪問看護と必要時は密に連絡をとり情報共有に努めている	本人・家族確認の上で全員が協力医の往診を受けている。他科受診は基本的には家族対応としており、難しい場合には職員が送迎を行い、院内は自費ヘルパーや家族が対応したりと、適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には週2回入ってもらい健康管理をしてもらっている。勤務時間外でも必要時にいつでも相談できる体制を取っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院される時はかかりつけ医の病院がほぼ対応してくれているので普段からの情報共有、のどかでの生活状況の把握等はできている。他科の時は主治医より情報提供してもらっている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に重度化した場合や看取りの指針について同意をいただいている。のどかでの看取りを望まれている方には主治医と連携をとって支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の指針について説明している。令和4年に再度意思確認書を取っている。これまでに終末期や看取り対応を行った事例はなく、希望する場合は応じる意向である。現在「終末期・看取りの対応」について研修を企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	de	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救急講習をディサービス、訪問介護のスタッフと共に受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いろいろな災害対策に向けての避難訓練をご利用者も含め実施している。有事に備え地域の方々との参加協力も得て実施している。鎮西地域包括とも災害時に備え地域で情報共有のやり方など検討している	年2回訓練を行っており9月には風水害訓練で垂直避難訓練を行った。12月には火災訓練を行う予定である。訓練には地域の方の参加もある。水・食糧・オムツ等の備蓄あり、消費期限の管理をしている。職員は備蓄品の保管場所を把握できている。	有事に備え夜間を想定した訓練の実施や避難場所の把握など、二次災害防止に向けた取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念でも上げているように入居者の方の「その人らしさ」を大切にしている。尊敬の気持ちを忘れず声かけや対応には常に心掛けている	名前を呼ぶときは名字に「さんづけ呼称」としている。羞恥心への配慮として、トイレ誘導時に他の利用者に気づかれないように声掛けに気を付け「トイレ」「お手洗い」などの直接的な言葉を使わないようにして、各居室のトイレを使用している。オムツ交換時は部屋のドア、カーテンを閉めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事でパンのお好きな方には希望通りパンをお出ししたり好みの飲み物などを伺い飲んで頂いている。ドライブの出掛け先、外食時の食事を選ぶ時などもご利用者の希望をできるだけ反映している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や動作のゆっくりな方には見守りつつ待つケアをしている。散歩やドライブは喜ばれるので良く出掛けている(今夏は異常な暑さだったため回数は少なかったがまた秋になっていきている)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日のメリハリを大事にしている、朝フロアーに出て来られるときには寝巻から服に着替えて頂き、夕食後は寝巻に着替えて頂く、特に外出などはおしゃれをして出掛けるようにしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆さんの楽しみの一つで出来る方には食事の準備や片付けをして頂いている。料理の得意な職員と皆さんで蒸し饅頭など作るととても喜ばれる、干し柿作りやつくしの袴むきなども現役顔負けの力を発揮していただいている	法人母体の食材を利用し、足りない物は職員が買い物に行っている。平日は調理員が調理している。利用者の好みや能力を活かし、職員と一緒にテーブル拭きやご飯、味噌汁のつぎ分けやお茶を入れたり準備を行っている。外庭に職員と一緒にネギの種をまき成長したネギを利用することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	de	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は軟食が中心でミキサー食、減塩食、糖尿食、一口大、とろみ食の方がおられる、出来る限り自力摂取を援助している。ミキサー食の方も味が混ざらない様に皿ごとに分けている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理体制加算をとり咀嚼機能の改善や摂食についてのケアの向上を目指している。毎月歯科衛生士の口腔ケアの研修を受け、食後の口腔ケアの促し、仕上げ等は全員に行っている。訪問歯科も入り治療や指導を受け実践している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録しトイレにお誘いしている。現在ご高齢の方が非常に増えたためオムツ対応も多くなったが清潔をこころがけ対応している	排泄チェック表にて排泄時間を把握し、1人ずつに合わせた声かけによるトイレ誘導をしている。殆どの利用者がリハビリパンツやパットを使用しているが、トイレでの排泄支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の為、甘酒や水分補給、果物や野菜の摂取を多くし、室内、戸外散歩などで身体を動かすようにしているが難しい方にはかかりつけ医による薬のコントロールをしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前中に行っている。2日に1回の入浴を基本にしているが高齢や病状などに応じて変更している。1対1の対応でゆっくり話ができ皆さん楽しみにされている	月曜日から土曜日までの間で2日に1回は入浴ができるように支援している。職員からの声掛けに殆ど拒まれることはなく、タイミングが合わない場合は、時間を変えて誘うようにしている。体調不良で入浴が出来ない時は清拭を行っている。入浴時はおしゃべりをしたり、歌を歌ったりと楽しく入浴ができるように工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使い慣れた家具を持参されたり、これまでの生活習慣を尊重し、ベッドの使用等状況に合わせて準備している。居室の換気や室温・湿度にも気をつけている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は薬剤師と看護師が行い、介護職が服薬支援している。のみ込みに問題のある方には粉やゼリーにして飲み込みやすいように工夫をしている。服薬チェックは2名で行い服薬ミスを防いでいる。症状に変化があれば看護師や医師に連絡している		

自己	外部	項目	自己評価	de	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブ、買い物は皆さんお好きなのでよく出掛けている。家事の参加や食事の挨拶など役割りを持って頂けるように支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物はご希望を伺いよく出掛ける。年に1～2回遠出をしたり地域の方と交わった行事に参加している	ドライブの好きな利用者が多くコロナ禍前はよく出かけており、コロナが5類に移行したことでまた出かける機会が増えてきている。天候の良い日は近隣へ散歩に出かけている。体調により出かけることが困難な場合はテラスにでて日向ぼっこをしており、外気にふれる機会を作っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ご自分でお金の管理をされてる方はおらずほぼ預かり金での支援をさせていただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡で携帯電話を使用されている方は2名で家族が準備された。他の方は電話の取り次ぎ希望あれば行っている。コロナ禍の移行の段階でとまどいもたくさんあり皆で対応している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所に季節を感じる草花を生けたり、ご利用者と職員とで作成した切り絵、工作などを飾っている。 室温、湿度も小まめに調整し居心地良く過ごせるように工夫している	食堂兼居間は広い掃き出しの窓があり外庭に出られる。大きな窓からは自然の採光が入り、カーテンで明るさが調整できるようになっている。テーブルのほかソファーも置かれ好みの場所で過ごせるように工夫がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前やフロア各所にソファーを置いて自由に座って頂いている、職員も入り皆で談笑している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだダンスや写真、飾りなど自室内に自由に置いて頂きご本人が居心地良く過ごせるようにしている	居室には、冷蔵庫、ソファー、アルバム、仏壇や趣味の刺し子の作品、写真等の持ち込みがある。利用者の好みで持ち込んだものを配置しており、居心地よく過ごせる空間となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで安全にゆったりと過ごせるようになっている。廊下が長いので運動になる		